

中・晩生系枝豆の作り方

株式会社佐藤政行種苗



月別	6月			7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下



●うね立て
●は種 ※播種直後、畦間へ除草剤散布。
●中耕 (本葉2枚) ※中耕は畦間除草を兼ねて行う。
●中耕 (本葉4枚)
●中耕 (本葉6枚)
●追肥・培土
●防除 アブラムシ
●タネ ダイズ
●イガ 防除
●マメ シンク
●防サ ヤ
●収穫 ●収穫適期幅は5~7日間程度なので、実のふくらみが目立ち、莢を押さえると子実が飛び出す頃が適期です。莢の色が黄変してくると取り遅れとなります。

品種・種子量
 ●中晩生種・味めぐり・味自慢・秋かおり・赤ひげ (95~105日)
 ●晩生種・秘伝・味ゆたか・かおり・岩手みどり・毛豆 (110~120日)
 ●播種量は、1a=5dl~6dl

圃場準備
 ●土壌の適応性は広いですが、過乾燥や過湿では生育が悪くなり減収となるので、排水良く保水性の良い土を選びましょう。
 ●良質なたい肥を使用して地力を高め、連作は避けましょう。
 ●土壌酸度は、pH6.0~6.5が適正ですので、早めに矯正する。
 ●前作が、多肥作物の圃場には作付を避けること。

施肥
 ●たい肥は、1a=40~60kg程度、施用する。
 ●基肥は、1a=成分量で窒素0.3kg、リン酸2.5kg、加里1.8kgを基準として、前作・圃場の条件に応じ調整する。
 ●土壌改良の為、シエルカンネオを20kgと酸度調整の為に、苦土石灰を10kg散布して良く耕し混和する。
 ●播種の3週間前には、施肥し畑を作ること。
 ●追肥は、開花期にシエルカンネオを5kg施す。

播種
 ●中晩生種は6月上旬~6月中旬。
 ●晩生種は6月下旬~7月上旬。
 ●畦幅80cm、株間30~40cm、一条植え、一株仕立。
 ●晩生種は、早蒔きするとマン化するので早くても6月20日~が最適です。

土壌水分
 ●播種後の土壌の乾燥・過湿は、発芽不良の原因となります。
 ●開花期は、高温の為に土壌の水分が不足し乾燥すると、授粉不良の原因となります。

管理
 ●土寄せは、本葉1~2枚時に子葉の上まで、2回目は3~4枚時に初生葉の上まで、3回目は5~6枚時に本葉1枚目下まで行う。本葉7~8枚時に摘芯をすることにより、草勢が安定し分枝が多くなるため、収量が増します。
 ●追肥は、草勢が強い場合はチツンは控えること。

施肥例 (1a当り)

肥料名	保証成分 %				施肥量 kg(1a当り)	備考
	窒素	リン酸	加里	苦土		
たい肥					40~60	完熟したものを使用
ナガオカユークイ5号	8	10	12	2	2	三要素の他ホウ素・苦土・マンガンを含む
シエルカンネオ又は若土					25	カルシウム補給・土改材
Gセブン				17	2	苦土補給(元肥)
ヨウリン		20		12	10	リン酸補給。
苦土石灰				15	10	苦土15%・石灰30%